

地域の資料ネットとして継承をどう考えていくか

宮崎歴史資料ネットワーク 竹井 真知子

「継承」がテーマ

昨年度の発表：次世代の主体的な関与

今年度の発表：前世代からの技術伝承⇒上の世代から何を伝えていくか、果たすべき役割とは。

継承に際しての二つの支柱

・活動の精神…資料を保全していく意義

何を残していくのか？何故残していくのか？何を目指すのか？

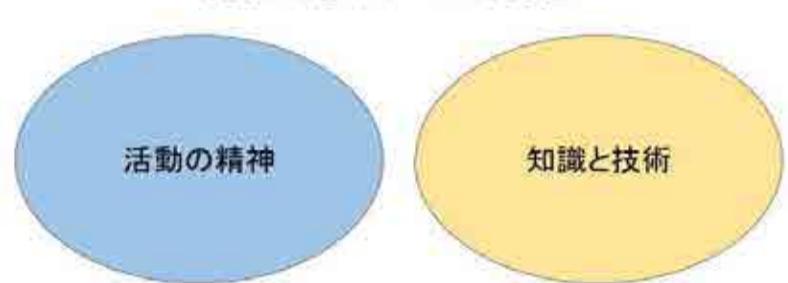
・資料保全のための知識と技術…

資料の種別、素材の種類の判別のしかたと取扱方法

資料の状態観察と脆弱性・緊急性の判断のしかた

資料の救済から保全までの一連の作業の進め方と注意点

継承のための二つの支柱



次世代にとって一番大事なこと、役立つこととは

・前世代の「経験」

反省点や失敗の経験であっても重要

・保全した資料についてわかったこと

「資料と地域史とのかかわり」=資料の重要性と保全する意義を強く認識



※今のわれわれが活動を通して考えた点、反省した点、地域の資料を取り扱う中で抱いた未来への展望などを大切に記録し、言葉で伝えていくことが重要。
保全すべき資料の所在やレスキュー事態を事前に把握するための情報キャッチの仕方。
地域間連携・ネットワークのさらなる拡張を目指す。

地域の中で歴史資料に関心を持ち、その保全を支えていく人たちに対して…

教育普及活動

- ・ふすま下張りはがしなどのワークショップの蓄積は財産。
- ・保全した資料と地域とのかかわりを伝える講座・シンポジウムを開催して、より関心を深めてもらう。
⇒関心のなかった人たちにも資料保全の大切さを認識してもらうことの必要性。

